

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| ※受理番号      | 学 校        | 教 科    | 種 目  | 学 年 |
|------------|------------|--------|------|-----|
| 103 - 98   | 高等学校       | 地理歴史科  | 地理探究 |     |
| ※発行者の番号・略称 | ※教科書の記号・番号 | ※教科書名  |      |     |
| 46 帝国      | 地探-702     | 新詳地理探究 |      |     |

## 1. 編修の基本方針

○ 教育基本法第 2 条に示される教育の目標を達成するために、下記のような基本方針に基づいて編修した。

### 1) 地理総合での学習を踏まえ、最新の世界情勢や学術動向をより深く理解し、現代の世界と日本が抱える諸課題の解決に向けて、主体的に取り組む態度が育成できる教科書

- 最新の世界情勢や学術動向を詳細な記述によって紹介し、現代世界の地理的事象や諸地域をより深く理解できるよう工夫した。その際、具体例を挙げながら背景や因果関係まで記述することで、生徒が理解しやすいよう配慮した。
- 地球的課題だけでなく、世界の各地域が抱える課題、日本が取り組むべき課題などを詳しく紹介し、それぞれについて正対して考えていけるように工夫した。
- 写真やグラフ、模式図などの視覚資料を数多く設け、さまざまな資料を活用しながら多面的・多角的に学習内容の理解を深められるよう配慮した。
- 本文には写真や図表への参照記号を付し、相互に関連を図りながら学習を進められるよう工夫した。
- 具体的な地域事例を示したコラム「**地域を見る目**」や、学習内容に関連したテーマや新しい動きを紹介したコラム「**深める**」を各所に設け、世界各地の生活文化などのさまざまな地理的事象やその背景を理解できるようにした。
- 持続可能な社会をつくるために参考となる取り組みを紹介した特設ページ「**持続可能な社会を目指して**」を 7 か所設け、生徒が自身の考えを持つことができるように配慮した。
- 全編を通して日本の事例を豊富に取りあげ、日本と世界各地の地理的事象を比較・対照させることで、現代世界が抱える諸課題への理解をより深められるよう工夫した。

### 2) 思考力・判断力・表現力を育成できる教科書

- 思考力・判断力・表現力を育成しつつ、深い学びを達成することができるよう、学習を見通す「**節の主題**」「**学習課題**」、考察を深める「**読み解き**」「**Key Words**」、学習内容を振り返る「**確認**」「**深い学び**」などを随所に設けた。
- 地理学習において、特に重要な地理的技能についてまとめた特設ページ「**Skill**」を 10 か所設けた。
- 資料読解のほか、討論したり論述したりすることで、より深く考察していく特設ページ「**探究 TRY**」を 10 か所設けた。

## 2. 対照表

| 図書の構成・内容   | 特に意を用いた点や特色  | 該当箇所  |
|--|--|---|
| <p><b>第1部 現代世界の系統地理的考察</b></p> <p><b>第1章 自然環境</b></p> <p>序節 地球環境と人間</p> <p>1節 地形</p> <p>2節 気候</p> <p>3節 日本の自然環境</p> <p>4節 地球環境問題</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 世界の自然環境の基礎となる地形や気候について幅広い知識と教養を身につけることができるよう、詳細な記述や模式図、図表、写真を豊富に用いて構成した。〔第1号〕</li> <li>□ 地形や気候の成り立ちに加えて、人間生活との関わりについても丁寧に記述した。その際、自然の正の側面と負の側面の両面を理解できるように配慮した。〔第4号〕</li> <li>□ 自然環境と関わりが深い環境問題について、原因や分布の解説にとどまらず、解決への取り組みまでを丁寧に扱った。環境保全に向けて協力し、かつ、参画していくことの重要性を理解できるよう工夫した。〔第3号、第4号〕</li> </ul> | <p>p. 6～67</p> <p>p. 6～67</p> <p>p. 68～79</p>                           |
| <p><b>第2章 資源と産業</b></p> <p>1節 農林水産業</p> <p>2節 食料問題</p> <p>3節 エネルギー・鉱産資源</p> <p>4節 資源・エネルギー問題</p> <p>5節 工業</p> <p>6節 第3次産業</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 生産や貿易などの分布図を豊富に掲載し、先進国と発展途上国を対比させるなど、地域的差異を幅広く捉えられるようにした。〔第1号〕</li> <li>□ 食料や資源をめぐる問題など、現代世界が抱える課題について取りあげ、持続可能な社会を形成するために協力し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した。〔第3号、第5号〕</li> </ul>  | <p>p. 80～97,<br/>104～115,<br/>122～145</p> <p>p. 98～103,<br/>116～121</p> |
| <p><b>第3章 交通・通信と観光, 貿易</b></p> <p>1節 交通・通信</p> <p>2節 観光</p> <p>3節 貿易と経済圏</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 国家間の結びつきや地域的な枠組みについての理解が深まるよう、最新の情勢や具体事例をもとに学習できるようにした。〔第1号〕</li> <li>□ 交通・通信や観光など、グローバル化が進む世界の様子を地図や写真などで示し、そこから読み取る力を伸ばせるよう工夫した。〔第2号〕</li> </ul>  | <p>p. 160～165</p> <p>p. 146～153<br/>154～159</p>                         |
| <p><b>第4章 人口, 村落・都市</b></p> <p>1節 人口</p> <p>2節 人口問題</p> <p>3節 村落と都市</p> <p>4節 都市・居住問題</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 人口問題, 都市・居住問題などの現代世界が抱える課題について取りあげ、持続可能な社会を形成するために協力し、その発展に寄与する態度を養えるようにした。〔第3号、第5号〕</li> </ul>   | <p>p. 166～197</p>   |
| <p><b>第5章 生活文化, 民族・宗教</b></p> <p>1節 衣食住</p> <p>2節 民族・宗教と民族問題</p> <p>3節 国家の領域と領土問題</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 衣食住および民族・領土問題については、世界や日本における具体的な事例を通して、資源や宗教, 政治・経済などのさまざまな要因が背景にあることを理解し、国際平和について考察できるように工夫した。〔第1号、第5号〕</li> <li>□ 我が国を愛する態度を養い、領土をめぐる問題の平和的な解決方法を考えることができるよう、日本の領土について、図や写真を用いて丁寧に解説した。〔第5号〕</li> </ul>   | <p>p. 198～220</p> <p>p. 216～219</p>                                     |

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p><b>第2部 現代世界の地誌的考察</b><br/> <b>第1章 現代世界の地域区分</b><br/> 1節 地域区分の意義と指標</p>   | <p>◦ 現代世界が、さまざまな指標によって地域区分できることに気づき、地域の概念や地域区分の意義を理解できるように構成した。〔第1号〕</p>   | <p>p.222～225</p>  |
| <p><b>第2章 現代世界の諸地域</b><br/> 序節 地域の考察方法<br/> 1節 中国<br/> 2節 韓国<br/> 3節 ASEAN 諸国<br/> 4節 インド<br/> 5節 西アジアと中央アジア<br/> 6節 北アフリカとサハラ以南<br/> アフリカ<br/> 7節 EU 諸国<br/> 8節 ロシア<br/> 9節 アメリカ合衆国<br/> 10節 ラテンアメリカ<br/> 11節 オーストラリアとニュージー<br/> ランド</p> | <p>◦ 世界の諸地域について、11の国・地域をバランス良く取りあげるように留意した。各国・地域の地形や気候などの自然環境や、産業や宗教、民族、言語などの社会環境といった地理的環境から考察するための様々な視点を身につけられるように構成した。〔第1号〕</p> <p>◦ 各国・地域における地域的課題や地球的課題を意識的に取り上げ、その地域の平和と発展に寄与する態度を養えるよう工夫した。〔第5号〕</p> <p>◦ 取りあげた11の国・地域すべてで、冒頭に自然環境についての学習を進められる資料などを配置した。また、「日本との関わりを考えながら学習しよう」を併せて冒頭に設け、日本と各国・地域がたがいに協力することが国際社会の平和と発展に寄与することに気づかせるようにした。〔第4号、第5号〕</p> | <p>p. 226～322</p> <p>p. 226～322</p> <p>p. 228～229, 238～239, 244～245, 254～255, 262～263, 270～271, 278～279, 290～291, 296～297, 308～309, 316～317</p> |
| <p><b>第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像</b><br/> <b>第1章 持続可能な国土像の探究</b><br/> 1節 将来の国土の在り方<br/> 2節 持続可能な日本の国土像の探究</p>  | <p>◦ それまでの学習を踏まえて、日本の強みと持続可能な社会を実現するための課題を振り返り、将来の国土の在り方について生徒自身が主体的に考えられるようにした。特に、「森林保全による新たな国土像」をテーマに設定し、自然環境や農林水産業など既習事項を生かした探究活動になるよう配慮した。まとめた意見については積極的に国や自治体に提言することを本文や掲載資料で示し、主体的に社会参画する態度を養えるよう配慮した。〔第3号〕</p> <p>◦ 具体的なレポートとともに構成し、生徒自らが課題を発見し、真理を求める態度を養えるようにした。〔第1号〕</p>   | <p>p.324～335</p> <p>p.328～335</p>   |

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

#### 1) すべての生徒に読みやすい教科書

- (1) 色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使用した。
- (2) 本文や側注、キャプションなどの文字については、文字をはっきりと読み取ることができるとユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用した。

#### 2) 環境に優しい素材と堅牢な造本

- (1) 紙には古紙を入れるとともに、環境に優しいフレッシュパルプを使用した。一方で、写真がきれいに見えるよう、白くて裏うつりの少ないものを使用した。
- (2) 再生産が可能な植物由来の油などを原料とするインキを使用した。
- (3) 使用期間の間、破損することがないように、堅牢なつくりにした。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

| ※受理番号      | 学 校        | 教 科    | 種 目  | 学 年 |
|------------|------------|--------|------|-----|
| 103 - 98   | 高等学校       | 地理歴史科  | 地理探究 |     |
| ※発行者の番号・略称 | ※教科書の記号・番号 | ※教科書名  |      |     |
| 46 帝国      | 地探-702     | 新詳地理探究 |      |     |

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

○ グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる教科書となるよう、以下の点に配慮した。

### 1) 現代世界の地理的事象や学術動向の新しい動きをつかめる教科書

- 本文は、全編において、**最新の世界情勢や学術動向**を積極的に記述するとともに、地理的事象の因果関係が理解できるようにした。その際、中学校社会科地理的分野や高等学校地理歴史科地理総合での学習事項にも配慮した。地理的事象のより詳しい要因や将来の展望、世界の各地に暮らす人々の姿が見えるようにした。
- 学習内容に関連したテーマについての最新かつ具体的な事例を「**深める**」で取りあげた。とくに、グローバル化や資源・エネルギー問題、防災などの内容を中心に取りあげた。
- グローバル化が世界の諸地域にもたらす影響についての理解が深まるよう、世界各地の地域の現状や変化を具体的な事例で紹介したコラム「**地域を見る目**」を各所に設けた。

### 2) 現代世界と日本との関わりがみえる教科書

- 「第1部 現代世界の系統地理的考察」では、自然環境、農林水産業、人口問題などの項目ごとに日本の事例を取りあげた。世界と日本との比較・対照を通してより理解を深められるよう工夫した。
- 「第2部 現代世界の地誌的考察」では、「**日本との関わりを考えながら学習しよう**」を各地域の導入に設けた。グローバル化が進む現代世界のなかで、日本が各国・地域とどのように結びついているかを捉えられるよう工夫した。

### 3) 地理的な見方・考え方を働かせ、地理的技能が身につく教科書

- 各節の冒頭には学習を進める際に必要となる視点を踏まえた「**節の主題**」を設置し、地理的な見方・考え方を働かせながら学習できるように配慮した。また、各節の最後には「**深い学び**」を設け、地理的な見方・考え方を働かせながら学習内容をまとめたり、説明したりする活動を充実させた。
- 各項のタイトル横には「**学習課題**」を設け、その項の学習内容の視点や課題を明確に示した。また、各見開きの終わりには「**確認**」を設け、生徒が学習事項を自身の言葉で説明する内容を中心に構成し、思考力・判断力・表現力を育成できるように配慮した。
- 各ページに掲載した写真や図表は、地理的・地域的特色や分布の傾向などを読み取れるよう工夫した。また、図表や写真から地理的な事象を読み解くための問い「**読み解き**」を各所に設け、普段の学習のなかで図表を読み解くための地理的な見方・考え方、地理的技能が身につくよう工夫した。これらの工夫によって、生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮した。
- 各単元の内容に応じて、地理学習に必要な技能を身につけるための特設ページ「**Skill**」を10

か所設けた。特に地形図や統計地図，グラフの読図や作図などの活動を充実させた。また，写真や図表の読み解きの設問「TRY」を特設ページ内に設け，生徒が主体的に学習できるように配慮した。

#### 4) 主体的で探究的な学習活動を通して，持続可能な社会づくりに参画する態度を養う教科書

- 各単元の内容に応じて，資料読解のほか，討論したり論述したりすることで，より深く考察していく特設ページ「探究 TRY」を10か所設けた。
- 持続可能な社会をつくるうえで参考となる取り組みを紹介した特設ページ「持続可能な社会を目指して」を7か所設け，生徒が自身の考えを持つことができるように配慮した。
- 第3部では，望ましい日本の国土像などを多面的・多角的に探究するにあたって，具体的な探究事例を掲載するとともに，調査方法を丁寧に解説した。

## 2. 対照表

| 図書の構成・内容  | 学習指導要領の内容 | 該当箇所  | 配当時数                       |
|---|-----------|---|----------------------------|
| <b>第1部 現代世界の系統地理的考察</b><br><b>第1章 自然環境</b><br>序節 地球環境と人間<br>1節 地形<br>2節 気候<br>3節 日本の自然環境<br>4節 地球環境問題 | A (1)     | p. 5～7<br>p. 8～31<br>p. 32～61<br>p. 62～67<br>p. 68～79                         | 1<br>7<br>7<br>1<br>4      |
| <b>第2章 資源と産業</b><br>1節 農林水産業<br>2節 食料問題<br>3節 エネルギー・鉱産資源<br>4節 資源・エネルギー問題<br>5節 工業<br>6節 第3次産業        | A (2)     | p. 80～97<br>p. 98～103<br>p. 104～115<br>p. 116～121<br>p. 122～139<br>p. 140～145 | 5<br>2<br>3<br>2<br>5<br>2 |
| <b>第3章 交通・通信と観光，貿易</b><br>1節 交通・通信<br>2節 観光<br>3節 貿易と経済圏  | A (3)     | p. 146～153<br>p. 154～159<br>p. 160～165  | 2<br>2<br>2                |
| <b>第4章 人口，村落・都市</b><br>1節 人口<br>2節 人口問題<br>3節 村落と都市<br>4節 都市・居住問題                                     | A (4)     | p. 166～169<br>p. 170～177<br>p. 178～187<br>p. 188～197                          | 2<br>2<br>3<br>3           |
| <b>第5章 生活文化，民族・宗教</b><br>1節 衣食住<br>2節 民族・宗教と民族問題<br>3節 国家の領域と領土問題                                     | A (5)     | p. 198～201<br>p. 202～211<br>p. 212～220  | 2<br>3<br>3                |

|                                |       |              |                 |
|--------------------------------|-------|--------------|-----------------|
| <b>第2部 現代世界の地誌的考察</b>          |       |              |                 |
| <b>第1章 現代世界の地域区分</b>           | B (1) |              |                 |
| 1節 地域区分の意義と指標                  |       | p.221 ~225   | 1               |
| <b>第2章 現代世界の諸地域</b>            | B (2) |              |                 |
| 序節 地域の考察方法                     |       | p. 226 ~ 227 | 1               |
| 1節 中国                          |       | p. 228 ~ 237 | 4               |
| 2節 韓国                          |       | p. 238 ~ 243 | 2               |
| 3節 ASEAN 諸国                    |       | p. 244 ~ 253 | 3               |
| 4節 インド                         |       | p. 254 ~ 261 | 3               |
| 5節 西アジアと中央アジア                  |       | p. 262 ~ 269 | 3               |
| 6節 北アフリカとサハラ以南アフリカ             |       | p. 270 ~ 277 | 3               |
| 7節 EU 諸国                       |       | p. 278 ~ 289 | 4               |
| 8節 ロシア                         |       | p. 290 ~ 295 | 2               |
| 9節 アメリカ合衆国                     |       | p. 296 ~ 307 | 4               |
| 10節 ラテンアメリカ                    |       | p. 308 ~ 315 | 3               |
| 11節 オーストラリアとニュージーランド           |       | p. 316 ~ 322 | 3               |
| <b>第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像</b> |       |              |                 |
| <b>第1章 持続可能な国土像の探究</b>         | C (1) |              |                 |
| 1節 将来の国土の在り方                   |       | p. 323 ~ 327 | 1               |
| 2節 持続可能な日本の国土像の探究              |       | p. 328 ~ 335 | 5               |
|                                |       |              | <b>計 105 時間</b> |